

## 外観



撮影: Forward Stroke Inc.

「養護老人ホームきぬがさ」は、鉄筋コンクリート2階建て。紅葉の名所きぬがさ山を望む自然豊かな場所に立地。老朽化した50床と80床の2ヶ所の養護老人ホームを統合して2016年3月に開設された。

## 中庭



撮影: 北嶋俊治

ひろびろとした開放感のある中庭。車椅子や立位による園芸に配慮した立体花壇やベンチがある。3種類6本の樹木が植えられ、生育とともに四季折々の風情を演出していく。

## 共同浴室



撮影: Forward Stroke Inc.

大きな窓からきぬがさ山の借景が楽しめる共同浴室。さまざまな身体状況の方に対応するため、大型浴槽のほかに座ったまま入浴できる機械浴槽も設置している。

## 居室



入居者のプライバシーに配慮し、居室はすべて個室となっている。入居者が自室と判別しやすいように、隣接する居室の扉色を変える配慮を施している。

## 廊下



居室に面した廊下は、高窓から自然光が射し込む明るく開放的な空間。洗面スペースが随所に設けられ、カウンターとポウルに継ぎ目がなく清掃性に優れた、ポウル一体形カウンターが採用されている。

## ダイニング



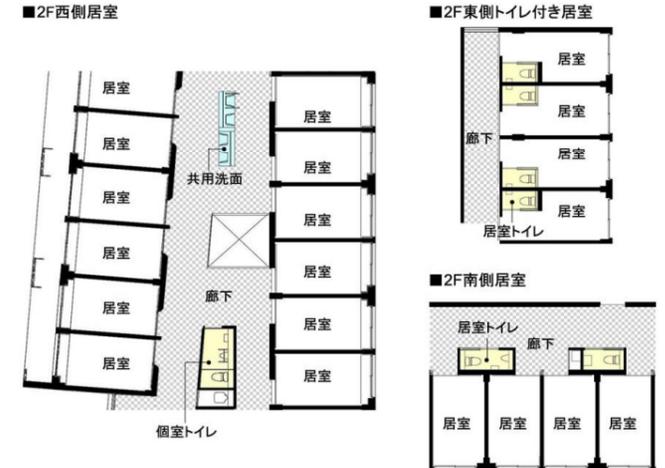
入居者が一緒に食事を楽しむことができるダイニングルーム。食事の手にいれに利用するポウル一体形カウンターを並列に設置。自立歩行の入居者に配慮し、手すりも設置している。

## 居室トイレ



2Fには、トイレ付の個室を設置。引戸は左右両開き仕様とし、利用者のさまざまな身体状況に配慮している。

## トイレ図面



全室個室としながら廊下を広く設け、入居者のひきこもりを回避するために、洗面とトイレを散在配置させている。2Fにはトイレ付き居室も設置している。

## 個室トイレ



廊下に点在するコンパクトな個室トイレ。退所後の日常生活で困らないように、自宅トイレに近いスペースとしている。限られたスペースを有効活用できるコーナー型洗面を採用している。

## 個室トイレ



入居者の身体状況に合わせ、広めのトイレも設け、使い分けている。男性入居者の小用のしやすさに配慮し小便器を併設。便器の詰まりに備えて、掃除口付きのパブリックコンパクト便器を採用している。

## 建築概要

名称	養護老人ホームきぬがさ
所在地	滋賀県東近江市五個荘川並町332番地
施主	社会福祉法人グロー
設計	<建築>伊熊昌治建築設計事務所 <設備>知久設備計画研究所
施工	桑原組
竣工年月	2016年2月

## 水まわりの特長

<建物の特徴>  
滋賀県蒲生郡日野町の「老人ホームさつき荘(定員50人)」と近江八幡市安土町の「養護老人ホーム安土荘(定員80人)」を、老朽化を契機として統合。東近江市に、130床の『養護老人ホームきぬがさ』が新設された。支援員が少ない養護老人ホームにおける、効率的かつ質の高いユニット・ケアの提供を追求。1フロア2ユニットとし、支援員室をその対角線上に配置することで、施設全体の見守りと臨機応変なサービス対応が可能な導線計画とした。また、入居者のプライバシー配慮のため、全室個室としながらも、入居者のひきこもりを回避するための配慮から、洗面・トイレ・食事スペースを散在させ、廊下を広くするなど、入居者同士の交流ができるスペースを設けている。

<水まわりの特長>  
トイレは入居者の身体状況や退所後の日常生活で困らないように配慮し、ADL(日常生活動作)向上を目指した。入居者がすぐにトイレに行けるように配慮し、集合トイレを設けるのではなく、個別トイレを広さや手すり付きなど多様なバリエーションを持たせて散在配置。結果、ポータブルトイレの利用者が大幅に減少した。大便器は、便器の詰まりに備えて、掃除口付きのパブリックコンパクト便器を採用。また、個室に手洗いを設置し、スペースを有効活用できるコーナー型洗面を採用している。